

報告

「教育を語るつどい in にいがた」

小野塚 恒 男

2020年8月23日（日）の午後、黒崎市民会館において「みんなで未来をひらく教育を語るつどい（オンライン版）」が開かれました。例年、全国教研集会がおこなわれる時期ですが、今年は新型コロナウイルスの影響でオンラインによる集いになりました。

このような状況下で、学校の役割はどのように考えたいのでしょうか。

子どもたちや父母・保護者、教職員はどのようにしたらいいのでしょうか。

当日配布されたレジュメには、「新型コロナウイルス感染拡大は、地域のセーフティネットとしての、また子どもたちの共同の居場所としての学校の役割をあきらかにしました」とありました。

メインは内田樹（たつる）神戸女学院大学名誉教授の講演（「コロナ危機から見える新自由主義の問題と教育の課題」）で、集会は「子どもたちにとって、父母・保護者、地域、教職員にとって、学校とは何かをあらためて考える機会」（レジュメ）になりました。

内田講演の要旨を、順を追って紹介します。

① 新自由主義について

日本でも、なにかも自己責任に帰す新自由主義を信じている人が多い。すべてを商品とみなす新自由主義は、アメリカではすでに破綻している。全員が医療を受けられる体制がないとコロナ禍は終息しないが、3000万人も無保険者がいるアメリカでは難しい。

豊かな人はそれなりに医療・教育を受けられるが、税金を納められない貧困者はハジキ出されている。

(注) 新自由主義の特徴：「なにもかも自己責任に帰す」、「経済効率優先で自由競争についていけない人は貧困に陥る」、「実力主義のため、持てる者と持たざる者の格差が広がる」、「社会保障費用を縮小する」など。

(2) 教育について

アメリカの発展は公教育がもたらしたもので、教育の最大の受益者は集団全体、国そのものである。医療も教育も集団の営みで、知性は集団的にはかるものである。個人について知力、学力をはかつてもまったく無意味だ。

※ 自分ひとりが成績優秀で高学歴を得ても、また個人の知力・学力がいくら高くても、集団的に生かされなければ、それほど価値はないということだろう。

(3) 子どもとの接し方について

学校の勉強は、オーブンマインドになればどんどん吸収できる。心を開いたら傷つけられてしまったという子は、その後のケアが大切で、その子に屈辱感を与

えないことが大切だ。

いちばん傷つけるのは査定をすることで、できるだけ査定をしないほうがいい。

どうやったら学びが起動するか。人の話を聞くことが学びの一步である。そのために子どもは温室で育てるべきで学校は温室であるべきだ。社会の常識から子どもを守る、社会の荒波から守ることが大切だ。

(4) 学習指導要領について

コロナ禍の約三ヶ月の休校期間の埋め合わせをしよと、学校は宿題を多くしたり授業時間を増やしたりしているが、そうやって学校嫌いや勉強嫌いをつくってはならない。学習指導要領は12年間通してのもので、2〜3年停滞してもなんとかなる。

いまの学校でおこなわれているのは感情の単純化である。人間はもつと複雑で、子どもに迂闊なことを言わせてはならない。

最後に、講演終了後の参加者の発言を紹介します。

・高校教員「全国一斉の休校の決定は子どもたちが置き去りにされている感じを受けた」

「休校が子どもたちにとって本当によかったかどうか検証する必要がある」

・保護者「格差の広がりが明確になった」

「休校で秩序がくずれて子どもたちは生き生きしてきたが、学校がはじまり元通りになるとつまらなそうな表情を見せるようになった」

(おのづか つねお・所員)



伝えること信じること

手元に岩波講座「教育の方法」という全10巻がある。1987年の本である。その第2巻「学ぶことと子どもの発達」に月報8という付録がはさんであつた。村瀬嘉代子さんの『「伝える」ということ』があつた。幼い自分が留守番のとき、乞食がきて、自分のお金をやったのを21歳のお手伝いの文さんに丁寧に注意された。後年、「相手の自尊心や自律心を大切に」などと学んでいたときに文さんの言葉がよみがえつた。文さんは私という存在そのものについてはいつくしんでくれていた。戦災で新婚まもなく亡くなった文さんを尊敬していた。

何気ない片言隻語が相手のうちに種が芽吹きやがて実を結ぶように確かな影響を及ぼすこともある。ブレイデイみかこさんも新潮2021年1月号「わたしのコーリング」で自分を信じてくれる人がいるということは致命的に重要だと述べている。

(伊藤)